

科目名	日常生活活動学Ⅱ						
科目名(英)	Activities of daily living Ⅱ						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	熊丸 真理・仲吉 功治		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 2年						
授業概要	1. 日常生活におけるセルフケアの役割について理解する 2. 日常生活を支援する機器について理解する 3. 疾患別日常生活の障害について理解する 4. 日常生活活動訓練について理解する						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				日常生活におけるセルフケアの役割について理解できるようになる	
	○	○				日常生活を支援する機器について理解できるようになる	
	○	○				疾患別の日常生活における障害について理解できるようになる	
	○	○				日常生活活動練習について理解できるようになる	
テキスト・教材 参考図書	細田多穂 監 日常生活活動学テキスト 南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	日常生活の中でのセルフケアの役割			教科書の予習をしておく。		
	2	グループ活動(セルフケア動作)			教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。		
	3	グループ活動(セルフケア動作)			教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。		
	4	疾患別セルフケア①中枢神経障害(脳卒中)			教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。		
	5	疾患別セルフケア①中枢神経障害(脳卒中)			教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。		
	6	疾患別セルフケア②中枢神経障害(パーキンソン病)			教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。		
	7	疾患別セルフケア③中枢神経障害(脊髄損傷)			教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。		
	8	疾患別セルフケア④運動器障害(関節リウマチ)			教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。		
	9	疾患別セルフケア⑤運動器障害(大腿骨頸部骨折・変形性膝関節症)			教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。		
	10	日常生活活動練習①(起き上がり)			教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。		
	11	日常生活活動練習②(起立・着座)			教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。		
	12	日常生活活動練習③(移乗)			教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。		
	13	日常生活活動練習④(歩行)			教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。		
	14	日常生活活動まとめ			教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。		
15	定期試験			これまでの授業資料を復習しておく。			
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	レポート	○	○		○		20%
履修上の注意							

科目名	神経障害 I						
科目名(英)	Neuropathy I						
単位数	2	時間数	60時間	担当者	河元 岩男・宇戸 友樹 松崎 哲治		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 2年						
授業概要	1. パーキンソン病とパーキンソンニズムの違いについて説明できる。 2. パーキンソン病を捉えるための適切な情報収集が出来、問題点と目標の考え方が理解できる。 3. パーキンソン病に対する運動療法の項目を挙げ、理論的根拠を理解した上で施行することが出来る。 4. 運動失調の分類と代表的疾患を挙げることができる。 5. 運動失調を捉えるための適切な情報を収集できる。 6. 運動失調に対する運動療法の項目あげ、理論的根拠を理解した上で実際に施行することが出来る。 7. その他の神経疾患について、代表的疾患を挙げ、理学療法の方法を説明できる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	△	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	◎		◎		適切な情報収集と目標設定から各疾患から考えら待る問題点をあげその根拠を説明できる。	
	◎	◎		◎		パーキンソン病の病態把握とその運動療法について根拠を理解して説明できる。	
	◎	◎		◎		運動失調の病態は空くとその運動療法について根拠を理解して説明できる。	
	◎	◎		◎		各神経疾患の運動療法についてその目的と根拠を理解し説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	1. 病気がみえる Vol7 脳・神経 2. 神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	科目オリエンテーション 中枢神経系の解剖・生理				教科書の予習をしておく。	
	2	パーキンソン病について:パーキンソン病の病態・生理①				教科書の予習をしておく。	
	3	パーキンソン病について:パーキンソン病の病態・生理②				授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	パーキンソン病について:評価と問題点				教科書の予習をしておく。	
	5	パーキンソン病の理学療法				授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	パーキンソン病の理学療法				教科書の予習をしておく。	
	7	パーキンソン病について(ケーススタディ)				授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	運動失調症の病理と脳機能解剖①				教科書の予習をしておく。	
	9	運動失調症の病理と脳機能解剖②				授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	運動失調の評価と問題点				教科書の予習をしておく。	
	11	運動失調の理学療法				授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	運動失調の理学療法(ケーススタディ)				教科書の予習をしておく。	
	13	筋萎縮性側索硬化症と多発性筋炎の病態生理				授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	神経難病に対する治療アプローチの原則(ICF)				教科書の予習をしておく。	
15	パーキンソン病、運動失調症 症例検討 実技テスト含む				授業資料のまとめを復習しておく。		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				20%
履修上の注意							

科目名	神経障害Ⅱ						
科目名(英)	Neuropathy Ⅱ						
単位数	2	時間数	60時間	担当者	松崎 哲治・宇戸 友樹		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 2年						
授業概要	1)脳血管障害の概念を理解する 2)脳血管障害のMRI画像診断を学ぶ 3)脳血管障害の検査・測定技術を説明し施行できる 4)脳血管障害の急性期・回復期・維持期の理学療法を説明できる 5)脳血管障害のADLの視点を知り、介助用法やリスク管理について説明できる						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	△	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		脳解剖および脳機能解剖を学び、脳血管障害の病態について説明できる。	
	○	○		○		MRIおよびCT画像の診方を学び、病態把握に必要な基本的な知識を基に説明できる。	
	○	○		○		脳血管障害の検査・測定を選択し、その目的と結果の考察を説明できる。	
	○	○		○		急性期、回復期、維持期における理学療法の目的と役割を説明できる。	
	○	○		○		脳血管障害の運動療法の目的とその方法について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	1)原寛美・吉尾雅春(編集):脳卒中理学療法の理論と技術(改定第2版)。メジカルビュー社. 2)森惟明・鶴見隆正著:PT・OT・STのための脳画像のみかたと神経所見. 医学書院.						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	脳血管障害の概念 内容:脳とは?				教科書の予習をしておく。	
	2	脳血管障害の概念 内容:脳卒中とは?				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	脳血管障害の評価 内容:脳血管障害の評価				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	脳血管障害の評価 内容:脳血管障害の評価				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	脳血管障害の動作分析・歩行分析 内容:脳血管障害の評価(動作分析から解る事)				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	脳血管障害の急性期理学療法 内容:脳血管障害の急性期とは、その評価と治療				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	脳血管障害の回復期理学療法 内容:脳血管障害の回復期とは、その評価と治療				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	脳血管障害の回復期理学療法 内容:脳血管障害の回復期とは、その評価と治療				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	脳血管障害の回復期・維持期理学療法 内容:脳血管障害の回復期・維持期とは、その評価と治療				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	脳血管障害の高次脳機能 内容:脳血管障害の高次脳機能の評価と治療				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	脳血管障害のMRI・ADL・上肢機能 内容:脳の構造と機能と見方とADL・上肢機能の評価と治療				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	脳血管障害の装具療法 内容:脳血管障害の装具療法				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	脳血管障害の評価・治療の統合と解釈 内容:脳血管障害の評価・治療の統合と解釈				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	脳血管障害の評価・治療の統合と解釈 内容:脳血管障害の評価・治療の統合と解釈				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	15	まとめ					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				20%
履修上の注意							

科目名	骨関節障害 I										
科目名(英)											
単位数	2	時間数	60時間	担当者	仲吉 功治・山下 慶三						
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○						
対象学科・学年	理学療法学科 2年										
授業概要	1. 骨関節系の基礎について知る。 2. 各疾患の病態について知る。 3. 各疾患の理学療法について知る。 4. 各疾患に対する評価から理学療法プログラムまで理解する。 5. 各疾患に対する理学療法を実施できる。										
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:	△	※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				骨関節疾患に関わる解剖学的知識を整理することができる。					
	○	○				各疾患の病態を理解し、適切な理学療法について説明することができる。					
			○			各疾患に対する理学療法を安全に実施することができる。					
	○	○				各疾患に対し、的確な評価を挙げ、理学療法プログラムの立案ができるようになる。					
○	○		○		ケーススタディを通し、問題点を把握し、その臨床推論過程を整理することができる。						
テキスト・教材 参考図書	1. 標準整形外科 第13版 松野丈夫、中村利孝 監修 医学書院 2017 2. 運動器の運動療法 第1版 小柳磨毅他編 羊土社 2017										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	オリエンテーション(骨関節障害の捉え方) 肩関節障害の捉え方(運動学との繋がりを理解する)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	2	肩関節障害の理学療法(実技) 上肢機能障害の理学療法(実技)					授業資料の復習をしておくこと。				
	3	上肢機能障害の理学療法(実技) 肩関節障害の理学療法(ケーススタディ)					授業資料の復習をしておくこと。				
	4	体幹機能障害に対する理学療法(運動学との繋がりを理解する) 体幹障害に対する理学療法(実技)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	5	体幹障害に対する理学療法(実技) 体幹障害に対する理学療法(実技)					授業資料の復習をしておくこと。				
	6	股関節障害に対する理学療法(運動学との繋がりを理解する) 股関節障害に対する理学療法(実技)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	7	股関節障害に対する理学療法(実技) 股関節障害に対する理学療法(実技)					授業資料の復習をしておくこと。				
	8	膝関節障害に対する理学療法(運動学との繋がりを理解する) 膝関節障害に対する理学療法(実技)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	9	膝関節障害に対する理学療法(実技) 膝関節障害に対する理学療法(実技)					授業資料の復習をしておくこと。				
	10	足関節障害に対する理学療法(運動学との繋がりを理解する) 足関節障害に対する理学療法(実技)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	11	足関節障害に対する理学療法(実技) 足関節障害に対する理学療法(実技)					授業資料の復習をしておくこと。				
	12	下肢関節機能障害に対する考え方 ケーススタディ 下肢関節機能障害に対する考え方 ケーススタディ					これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと				
	13	下肢関節機能障害に対する考え方 ケーススタディ 下肢関節機能障害に対する考え方 ケーススタディ					これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと				
	14	下肢関節機能障害に対する考え方 ケーススタディ 下肢関節機能障害に対する考え方 ケーススタディ					これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと				
15	まとめ										
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験(筆記)	◎	○				80%				
	小テスト	◎	◎				10%				
	実習レポート	○	◎				10%				
履修上の注意											

科目名	骨関節障害Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	60時間	担当者	花田 穂積・山下 慶三		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 2年						
授業概要	本講義では、臨床的に多くみられる体幹機能障害に対する理学療法の考え方を学び、脊髄損傷、関節リウマチの病態理解からADL指導までを学んでいく。体幹機能障害に対する理学療法については実技を主体とし体験を通し、理解を深めていく。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				体幹機能障害を呈する疾患について理解でき説明できる。	
	○	○	○			体幹機能障害に対する理学療法評価・治療を実践できる。	
	○	○	○			脊髄損傷の病態、合併症のメカニズムを理解し、残存レベル毎のADL指導を実践できる。	
		○	○			関節リウマチの病態、特徴を理解し、ADL指導を実践できる。	
テキスト・教材 参考図書	岩崎 洋編:脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版,文光堂,2015 リハ実践テクニック 関節リウマチ						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション・体幹機能障害に対する理学療法脊髄損傷の概要 体幹機能障害に対する理学療法 (疾患:椎間板ヘルニア)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	体幹機能障害に対する理学療法 (疾患:腰部脊柱管狭窄症・脊椎圧迫骨折他)				授業資料の復習をしておくこと。	
	3	体幹機能障害に対する理学療法 (実技)				授業資料の復習をしておくこと。	
	4	体幹機能障害に対する理学療法 (実技)				授業資料の復習をしておくこと。	
	5	体幹機能障害に対する考え方 ケーススタディ					
	6	体幹機能障害に対する考え方 ケーススタディ					
	7	脊髄損傷の概要(症状・合併症など)				授業資料の復習をしておくこと。	
	8	脊髄損傷の概要(症状・合併症など)				授業資料の復習をしておくこと。	
	9	四肢麻痺に対する理学療法(評価・アプローチ・ADL指導)				授業資料の復習をしておくこと。	
	10	四肢麻痺に対する理学療法(評価・アプローチ・ADL指導)				授業資料の復習をしておくこと。	
	11	対麻痺に対する理学療法(評価・アプローチ・ADL指導)				授業資料の復習をしておくこと。	
	12	対麻痺に対する理学療法(評価・アプローチ・ADL指導・歩行指導)				授業資料の復習をしておくこと。	
	13	関節リウマチの病態・臨床症状・治療内容と治療方針				授業資料の復習をしておくこと。	
	14	関節リウマチの理学療法の考え方(評価・アプローチ・ADL指導)				授業資料の復習をしておくこと。	
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)		◎		○		80%
	小テスト		◎				10%
	実習レポート		○	○			10%
履修上の注意							

科目名	内部障害Ⅱ						
科目名(英)	Internal Disability Studies respiratory organs Ⅱ						
単位数	2	時間数	60時間	担当者	今山隆士		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 2年						
授業概要	1. 運動に必要なエネルギー代謝と循環応答を理解する 2. 循環器系の解剖と生理を理解する 3. 心電図を読むことができる 4. 虚血性心疾患の病態と心臓弁膜症と大動脈の疾患について学習する 5. 運動処方と運動療法の考え方を理解する 6. 吸引について理解する						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		内部障害領域において理学療法の変遷を説明できる。	
	○	○				内部障害領域において循環器疾患の現状を説明することができる。	
	○	○				内部障害により起こりうる身体機能、日常生活の問題について説明できる。	
	○	○				循環器理学療法の実施過程を説明することができる。	
○	○		○		チーム医療において理学療法士に求められる役割を説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	15レクチャーシリーズ理学療法テキスト「内部障害理学療法循環・代謝」石川朗+木村雅彦 編、15レクチャーシリーズ理学療法テキスト「内部障害理学療法呼吸」石川朗+玉木彰 編 参考文献: 1)芳賀敏彦;リハビリテーション医学講座17巻.循環器・呼吸器疾患.医歯薬出版株式会社、2)奈良勲.鎌倉矩子監修.標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学.医学書院、3)黒澤一,佐野裕子;呼吸リハビリテーション.学研						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	エネルギー代謝と栄養			生理学・内科学を予習しておくこと。		
	2	循環器系の解剖と生理			小テスト対策(授業資料を確実に復習しておくこと)生理学の復習をすること。		
	3	運動時のエネルギー代謝と循環器の応答			小テスト対策(授業資料を確実に復習しておくこと)生理学の復習をすること。		
	4	心肺運動負荷試験演習			運動生理学の復習をすること。		
	5	心電図の基本、狭心症と心筋梗塞			授業資料を確実に復習しておくこと。教科書で様々な心電図、CT画像の確認をしておく。		
	6	運動負荷試験発表、異常心電図			小テスト対策(授業資料を確実に復習しておくこと)教科書で様々な心電図、CT画像の確認をしておく。		
	7	異常心電図、心電図読解			授業資料を確実に復習しておくこと。教科書で様々な心電図、CT画像の確認をしておく。		
	8	虚血性心疾患について			小テスト対策(授業資料を確実に復習しておくこと。教科書で様々な疾患の特徴を確認をしておく。		
	9	心臓弁膜症と大動脈の疾患			小テスト対策(授業資料を確実に復習しておくこと)教科書で様々な疾患の特徴を確認をしておく。		
	10	小テスト、大動脈の疾患			国家試験形式(授業資料の復習)記述式(小テストの復習)		
	11	循環器の総論			授業資料を確実に復習しておくこと。		
	12	実技(バイタル測定、運動処方)			授業資料を確実に復習しておくこと。		
	13	人工呼吸器について がんりハについて			授業資料を確実に復習しておくこと。 内科学の復習も兼ねておくこと。		
	14	吸引について 吸引実技			授業資料を確実に復習しておくこと。		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎		○		20%
履修上の注意							

科目名	小児発達障害						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	松岡 美紀		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	重症心身障害児施設において 理学療法士として勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 2年						
授業概要	・小児理学療法の考え方、対象疾患について理解する。特に脳性麻痺を通して、小児の対象者に対する理解を深め、理学療法評価、治療までの考え方を学ぶ。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				小児理学療法の考え方、対象疾患について説明できる	
	○	○				原始反射と姿勢反射について説明できる	
	○	○				0か月～12か月の粗大運動の発達について大まかに説明できる。	
	○	○				脳性麻痺の異常発達について説明できる	
	○	○				脳性麻痺の評価と治療について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	細田多穂・田原弘幸他 :小児理学療法学テキスト南江堂.2010 その他:国家試験を使って、ワーク形式で行っていきます。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション 小児理学療法の考え方			授業内容に該当する指定教科書の部分を読んでおく		
	2	脳の発達と随意運動の始まり			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	3	原始反射・立ち直り反応・平衡反応について①			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	4	原始反射・立ち直り反応・平衡反応について②			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	5	脳性麻痺の概念・病態について 脳性麻痺のタイプ別特徴について			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	6	NICUの理学療法・評価について(GMFCS・GMFM・PEDIなど) グループワーク			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	7	脳性麻痺の特異的運動発達について(重症心身障害児とは) グループワーク			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	8	脳性麻痺の特異的運動発達について(両麻痺) グループワーク			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	9	脳性麻痺の特異的運動発達について(アトニーゼ) グループワーク			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	10	脳性麻痺の評価(ケーススタディ)			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	11	脳性麻痺の評価と解釈(ケーススタディ)			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	12	脳性麻痺の治療の考え方(ケーススタディ)			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	13	ケーススタディまとめ			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	14	その他の小児疾患について(筋ジス・広汎性発達障害含む)			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で予習をもとに発表してもらう。また、授業中の挙手での発言も採点する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				60%
	レポート	○	○				20%
	発表	◎	○		◎		20%
履修上の注意							

科目名	地域理学療法学						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	60時間	担当者	木村 孝・牧井 昭憲		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 2年						
授業概要	地域包括ケアシステムの施行により、在宅での生活をいかに支援していくかが重要である。その中で地域理学療法学は、地域リハビリテーションサービスの重要なサービスの一つとして位置づけられている。退院からではなく入院から継続したICFに基づいた展開について紹介をする。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:	○	
					その他:	△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					地域リハビリテーションを歴史的背景を踏まえて概念を説明できる	
	○					地域リハビリテーションの中の地域理学療法についてその役割と専門性について説明できる	
	○					地域リハビリテーションサービスの一つである社会制度・社会資源について説明できる	
	○	○				地域リハビリテーション・地域理学療法の実際について展開できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:浅川育世編:ビジュアルレクチャー地域理学療法学. 医歯薬出版株式会社, 2012						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	地域リハビリテーションの概要				資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。	
	2	社会制度・社会資源の理解				資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。	
	3	地域理学療法の概要				資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。	
	4	グループワーク					
	5	地域理学療法の実際(通所サービス)				授業内容についての事前学習と他のサービスの関係について調べてください。	
	6	地域理学療法の実際(通所サービス)				授業内容についての事前学習と他のサービスの関係について調べてください。	
	7	地域理学療法の実際(入所サービス)				授業内容についての事前学習と他のサービスの関係について調べてください。	
	8	地域理学療法の実際(入所サービス)				授業内容についての事前学習と他のサービスの関係について調べてください。	
	9	地域理学療法の実際(訪問サービス)				授業内容についての事前学習と他のサービスの関係について調べてください。	
	10	地域理学療法の実際(終末期ケア)				授業内容についての事前学習と他のサービスの関係について調べてください。	
	11	地域理学療法の実際(介護予防)				授業内容についての事前学習と他のサービスの関係について調べてください。	
	12	地域理学療法の展開1				事例報告などの文献について調べてください	
	13	地域理学療法の展開2				事例報告などの文献について調べてください	
	14	地域理学療法の展開3				事例報告などの文献について調べてください	
15	まとめ						
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)グループ発表を実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				70%
	レポート	○	◎		◎		15%
	発表	○	◎		◎		15%
履修上の注意	班活動、見学、レポート提出課題があります。						